

団体名	公益財団法人日本フラグフットボール協会
-----	---------------------

添付資料 1

事業計画書

事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決事業 <input type="checkbox"/> 提案型協働事業（継続団体のみ）
事業名称	世田谷の子どもたちへフラグフットボールを届けるプロジェクト
1 地域貢献、2 費用対効果	
解決を目指す地域課題や社会的課題	<p>子どもたちの中には、「体育＝つらい・苦手」と感じて運動から距離を取ってしまい、心身の健康や自己肯定感の低下につながるものが課題となっています。学校現場では、競技性の高い種目に偏らず、多様な運動経験を提供することが求められていますが、体育備品に充てられる予算には限りがあり、新たな種目に取り組むことが難しい状況です。弊協会では、全国の学校を対象にフラグの寄贈事業を行っておりますが、世田谷区内からも多数の応募があり、希望するすべての学校への対応が難しいのが現状です。</p> <p>本事業では、そうした学校への支援をさらに充実させるとともに、ボールの寄贈や指導者の派遣も行い、フラグフットボールやタグラグビーといった種目を実施できる環境を整え、子どもたちが運動の楽しさに出会い、自分らしく体を動かすきっかけを提供します。</p> <p>弊協会では、メーカーではなく、市販品を作成する業者へ直接作成を依頼できるため、学校が買い揃えるよりも安価な調達が可能です。</p>
実施場所	世田谷区内小中学校
期待される具体的な区民・地域への波及効果	新しい運動体験を通して、子どもたちは「自分にもできることがある」と感じ、自信ややる気につながっていきます。フラグフットボールは、走る・考える・声をかけ合うなどいろいろな関わり方ができるので、運動が苦手な子にも自然と楽しめる場になります。こうした体験が、運動への前向きな気持ちや日常的な運動習慣につながっていくことが期待されます。
成果目標	本事業では、運動への苦手意識を持つ子どもを含め、参加者の8割以上が「運動が楽しい」と感じることを目指します。また、参加校の教員のうち6割以上が「体育が苦手な子どもにも有効な教材である」と評価し、5校以上から次年度以降も継続的な導入意向が得られることを成果目標とします。
成果目標の測定方法	成果の測定にあたっては、児童・生徒を対象にフラグフットボール授業後にアンケートを実施し、運動に対する印象や楽しさ、運動継続への意欲などについて検証を行います。さらに、授業に立ち会った教員に対してもアンケートや簡単な聞き取り調査を実施し、児童の変化や指導しやすさ、教材としての有用性などについて意見を収集します。加えて、導入校には継続実施の意向確認も行い、次年度への発展可能性についても把握します。
事業の対象者・予定人数	世田谷区内の30校
総事業費	1,980,000円

団体名	公益財団法人日本フラッグフットボール協会
-----	----------------------

補助金目標額 (寄附目標金額)	1,480,000円 (寄附目標金額: 1,300,000円)	
寄附金上限設定額	(設定する場合入力) 円	
3 新規性・創造性		
事業概要 (200~250字程度に)	本事業では、フラッグフットボールの用具(フラッグ40枚・ボール8個)を世田谷区内の小中学校30校に寄贈し、そのうち10校に指導者を派遣します。児童生徒が作戦を考えてプレーする特性を活かし、運動に苦手意識を持つ子どもにも成功体験を届ける教材として、学校体育で活用されることを目指します。全国で展開する寄贈事業を、自治体との連携によって地域密着型に進化させる試みであり、教育現場に継続可能な形で新しい運動文化を導入する挑戦です。	
4 実現可能性		
事業実施期間	令和7年10月1日 ~ 令和8年3月20日	
実施内容 (いつ、だれが、何を するのか等、実施 する内容を具体的に ご記載ください)	※補助金交付決定後、事業開始から終了までスケジュールをご記入ください。	
	実施月	内 容
	10	寄贈対象校を募集、決定、寄贈
	10~3	希望する10校に指導者を派遣
トラブルへの対応 (想定されるリスク とその対処方法)	想定よりも申込校数が少なかった場合には、学校関係団体や教育委員会を通じて改めて周知を行い、追加募集を実施します。また、小中学校に限らず、フリースクールなどにも対象を拡大することで、支援の趣旨に共感いただける実施校を確保します。	
5 将来性		
今後の展開 *事業の発展や自 立に向けての目 標・考え方など	本事業を継続的に実施することで、世田谷区内すべての学校が、用具面での不安なくフラッグフットボールやタグラグビーなどの体育種目に取り組める環境を整えることを目指します。その後は、指導者派遣の体制をさらに拡充し、体育授業の中でフラッグフットボールが効果的に活用されるよう、教育現場への支援を段階的に強化していきます。	
8・9 クラウドファンディング		
実施希望時期 (最大3か月)	令和7年8月1日 ~ 令和7年9月30日	
寄附を募るターゲット層	寄附の主なターゲット層は、フラッグフットボールやアメリカンフットボールに関心を持つ競技関係者です。競技の特性や教育的価値への理解が深く、共感を得やすい層といえます。また、学校教育や体育環境の充実に関心を持つ保護者、教育関係者、地域の支援者層にも広く訴求し、子どもたちの学びや成長を応援したいと考える方からの寄附も期待できます。	
広報活動計画	広報活動は、協会の公式サイトやSNSを活用し、寄附募集や事業の意義について広く発信します。特に、弊協会はプレスリリース配信サイト「PR TIMES」との提携があるため、これを活用し、教育・スポーツ・地域支援に関心の高いメディアや読者層への認知拡大を図ります。	

団体名	公益財団法人日本フライングフットボール協会
-----	-----------------------

寄附目標額を達成しなかった場合の対応	寄附目標額を達成しなかった場合には、事業全体の趣旨を損なわない範囲で、寄贈校数や指導者派遣校数を調整することで対応します。必要に応じて、希望校の中から優先度の高い学校を選定し、用具の寄贈数や構成を見直すなどして、限られた予算内で事業を実施できるよう柔軟に対応します。
寄附目標額を超えた場合の対応	寄附目標額を超えた場合には、寄贈対象となる学校数を拡大するとともに、指導者の派遣数を増やすことで、より多くの児童・生徒が質の高い学びを得られるよう事業を拡充します。また、予算に応じて用具の内容や指導サポートの充実を図り、持続的な体育授業への活用や部活動での導入支援にもつなげていきます。
その他	
その他 *提案する事業と団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど	日本フライングフットボール協会は、2008年よりフライングフットボールの普及に取り組み、全国の学校・自治体・スポーツ団体と連携しながら、用具寄贈や教材開発、指導者研修を実施してきました。本事業は、これまで培ってきた全国的な実績をもとに、初めて世田谷区内に特化して展開するものであり、指導者派遣や指導方法の共有など、地域の教育現場に寄り添った支援が可能です。競技性と教育的価値の両面を兼ね備えたフライングフットボールを通じ、運動が苦手な子どもでも楽しめる体育授業の実現と、地域のスポーツ文化の醸成に貢献します。

団体名	公益財団法人日本フラッグフットボール協会
-----	----------------------

事業収支予算書

☆今回提案する事業に要する予算のみ(×団体の年間予算)を入力してください。

【収入】

費目	内容	金額(円)	内訳(積算根拠)
自己資金	協賛金等	200,000	教師用サポートブックのスポンサー
区補助金	クラウドファンディング	1,480,000	寄付金額130万円、補助金30万円
他補助金	スポーツヒューマンキャピタル	300,000	外部委託補助金
【収入】合計		1,980,000	※事業計画書「総事業費」、【支出】合計と同額

【支出】

☆日常の運営経費(日常運営に要する人件費・消耗品費、事務所賃借料、光熱水費等)は補助対象外です。
必ず、募集要領5. 補助対象経費をご確認の上、ご作成ください。

費目	内容	金額(円)	積算根拠(品目・単価・数量等)		
補助対象経費	人件費	寄贈校募集、調整	300,000	1人×40日×5000円	
		[小計]	300,000		
		報償費	講師謝金	200,000	2人×10校×1万円
	報償費	[小計]	200,000		
		交通費	10校分の交通費	40,000	2人×10校×2000円
	交通費	[小計]	40,000		
		需用費	フラッグフットボール用具 フラッグ	480,000	フラッグ40人分×30校×400円
			フラッグフットボール用具 ボール	360,000	ボール8個×30校×1500円
	テキスト印刷費		120,000	子ども用100人分×30校×20円,教師用2人分×30校×100円	
	需用費	[小計]	960,000		
		役務費	[小計]	0	
	委託料		梱包、配送委託	150,000	30校への梱包、配送の委託
			テキストデザイン委託	30,000	

費目	内容	金額(円)	積算根拠(品目・単価・数量等)	
	[小計]	180,000		
使用料・賃借料				
	[小計]	0		
その他				
	[小計]	0		
[補助対象経費計]		1,680,000	※事業計画書「補助金要望額」と同額	
費目	内容	金額(円)	内訳(積算根拠)	
補助対象外経費	広報委託	クラウドファンディングサイト構築、更新	300,000	1ヶ月15万円、クラウドファンディング期間2ヶ月間
[補助対象外経費計]		300,000		
【支出】合計		1,980,000	※事業計画書「総事業費」、【収入】「合計」と同額	

☆必要に応じて、行を増やしてご作成ください。

団体名	公益財団法人日本フラッグフットボール協会
-----	----------------------

添付資料3 7実施体制

団体の概要

設立年月日 (活動開始)	2008年10月1日			
法人番号 (該当団体のみ)	5011005003040			
団体の設立目的	フラッグフットボールの普及・振興を通じて、青少年の健全な育成と地域社会の活性化を図ることを目的に設立されました。本協会は、誰もが安全に楽しめるスポーツとしての特性を活かし、学校教育や地域活動への導入を推進します。指導者の育成や大会の開催、教材の提供などを通じて、スポーツを通じた人間形成と多様性の尊重を重視し、より豊かなスポーツ文化の創造を目指します。			
主な活動分野	教育、スポーツ、地域コミュニティ			
社員数・会員数 (うち世田谷区 在住)	11人 (うち世田谷区在住 1人)			
会費	○無・有 (年額・月額 円)			
主な活動地域	全国			
主な活動実績	令和5年7月：全国700校への体育教具・教材の助成 令和5年11月：第10回全国教員フラッグフットボール大会の開催 令和6年3月：2024年度日本フラッグフットボール選手権の開催			
運営状況(直 近3年間)		令和5年度	令和4年度	令和3年度
	総収入	13,239,743円	13,766,003円	13,615,275円
	総支出	13,239,743円	13,766,003円	13,615,275円
	損益	0円	0円	0円
過去のクラウドファンディング活用実績	○無・有 (サイト名： 、令和 年 月～ 月実施、 達成額 円/目標額 円)			
当年度の活動 予定	本年度も、前年度に引き続き、全国の小学校を対象としたフラッグフットボール用具および教材の寄贈事業を実施する予定です。本事業は、公益財団法人日本スポーツ協会を通じた宝くじ助成金等を活用し、児童用フラッグ・ベルトや副読本、指導者向けのサポートガイドを無償で提供するものです。運動が苦手な子どもでも参加しやすいニュースポーツを授業に導入することで、運動習慣の定着や学級内の協働的な学びを促進し、体育授業の多様化と教育的価値の向上を目指します。申請校の状況を踏まえ、できる限り多くの学校に対して公平かつ効果的な支援を行ってまいります。			

団体名	公益財団法人日本フライングフットボール協会
-----	-----------------------

事業実現のための体制（人材、連携・協働関係等）	<p>本事業の実施にあたっては、すでに世田谷区を含む全国の小学校を対象とした寄贈事業について、公益財団法人日本宝くじ協会の補助金に内定しており、寄贈にあたっての安定した事業基盤を確保しています。</p> <p>広報・指導者派遣の体制としては、フライングフットボールに関する知識と経験を有するスタッフを今年度1名新たに配置し、学校や自治体との円滑な情報共有を行うとともに、学校での指導を担います。</p> <p>さらに、学校教材会社との連携により、用具や教材のパッケージングから配送までを効率的に実施できる体制を整えており、スムーズな事業運営が可能です。</p>
-------------------------	--

事業名： 世田谷の子どもたちへフラッグフットボールを届けるプロジェクト

団体名： 公益財団法人日本フラッグフットボール協会

No.1

質問	フラッグフットボールの導入の必要性について、従来から学校で実施されているスポーツよりどの点で優れているのでしょうか。
回答	フラッグフットボールは、ドリブルなしでゲームを展開できる点で参加のハードルが低く、「戦術学習」に最適な教材とされています。「戦術学習」では、従来のスキル積み上げ型に比べて子どもの考える力(思考力)が育みやすいという特徴があります。

No.2

質問	継続できる指導者の派遣体制もしくは研修体制をどのように作る予定でしょうか。指導のためのマニュアル(テキスト)などはあるのでしょうか。
回答	日本フラッグフットボール協会では、経験のない先生でも安心して授業ができるガイドブックを発行しており、これをお配りすることで先生方が指導しやすい環境を整えます。

No.3

質問	寄贈対象校の選定方法及び希望する10校にのみ指導者を派遣する理由についてお教えてください。
回答	フラッグフットボールのみならず、体育の指導に不安感を持つ先生は少なくありません。そこで、まずは派遣した指導者が授業をお手伝いすることで取り組みやすい体制を整えたいと考えています。

No.4

質問	10月中に「寄贈対象校を募集、決定、寄贈」としていますが、申込校数が少なかった場合の対応方法・スケジュール案などについてもう少し具体的にお教えてください。
回答	10月上旬に募集を開始します。募集開始時には、FAXやWebサイトで広報します。現在協会が実施している事業では抽選が発生するほどの申し込みがありますが、もし一定期間(10日以上等)経過して申し込み数が一定数以下の場合には、教育委員会を通じて各学校への周知をお願いしたいと考えております。

No.5

質問	申込校数の定員割れ以外のリスクやトラブルなどは想定不要ということでしょうか。
回答	用具の調達や指導者の派遣体制、広報等の運営面においても既に全国での実績を活かしたスキームが確立しており、重大なトラブルは発生しにくいと考えております。ただし、想定外の事態が生じた場合にも、必要に応じてメーカーや教育委員会などの関係機関と連携しながら速やかに対応を行ってまいります。

No.6

質問	事業計画書では、課題として「子どもたちの中には、「体育＝つらい・苦手」と感じて運動から距離を取ってしまい、心身の健康や自己肯定感の低下につながるものが課題となっています。」との記載がありますが、この課題が生じている根拠をお教えてください。
回答	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果において、体育の好き／嫌い、体力や運動習慣が相関していることが報告されています。また、そこでは、体育の授業の充実がこの課題の解消に向けて重要と指摘されています。

No.7

質問	全国で展開している活動のように見受けられたが、世田谷区で広めていく思い、導入後の継続的な支援等、持続的に続けていくための工夫は何かお考えでしょうか。
回答	弊協会は世田谷区の日本体育大学内に事務所があり、大学教員の理事をはじめとした関係者の協力が得られやすいといえます。そのため、フラッグフットボールに精通した大学教員が教員研修を行うなど、事業のフォローアップが可能です。

No.8

質問	寄附の主なターゲット層である競技関係者は、どのくらいいらっしゃるのでしょうか。
回答	フラッグフットボールは全国に3,000人以上の競技者がおります。また、アメリカンフットボールの競技者も3,000人ほどおります。そのため、全関係者を数えれば1万人以上の関係者を見込めます。

事業名： 世田谷の子どもたちへフラッグフットボールを届けるプロジェクト

団体名： 公益財団法人日本フラッグフットボール協会

NO.9

質問	「広く訴求し～寄附も期待できます」とお考えの根拠をもう少し詳しくお教えてください。又、フラッグフットボールの競技人口や認知度等、参考となるデータや情報をご提示いただけないでしょうか。
回答	フラッグフットボール人口の半数は小中学生ですが、その父母、祖父母もフラッグフットボールの関心が高い層といえます。また、2028年のロサンゼルスオリンピックの種目に内定しており、学校内外で注目が集まっているスポーツです。

NO.10

質問	学校現場への導入を踏まえて、学校側にどのようなアプローチを考えているのでしょうか。
回答	小学校では、学習指導要領に記載されているため学校に馴染みのある種目であろうと思います。一方、中学校では技能差が少なく男女共修が可能な「ゴール型」の一種目として、提案したいと考えております。

事務局

質問	クラウドファンディング開始を「8月1日～」としています。その場合7月中旬頃までにホームページ掲載内容を完成する必要があります。そのため、ホームページ掲載内容・写真などの準備を7月上旬に提出いただき、短期に綿密に調整する必要がありますができませんでしょうか。難しければ、クラウドファンディング開始日が後ろ倒しになります。
回答	ご指摘ありがとうございます。広報専門スタッフがおりますので、できる限り早期に開始できると考えておりますが、もしサイトの設定が複雑な場合などは、時期を後ろ倒しする可能性がございます。